

オフィスや商業ビルなどの施設管理事業を柱に、スポーツチームとその本拠地の一体的なマネジメントや、バイオマス発電などのエネルギー関連施設の管理も手掛ける三井物産フォーサイト。ビジネスやエンターテインメント、エネルギーインフラの裏方として社会活動を支える同社の山本佳弘社長に、コロナ禍の二年と今後を聞いた。

従業員の感染防止と消毒サービスを並行

コロナでテレワークが浸透する一方、施設管理は現場作業が不可欠で人との接触が避けにくい。三井物産フォーサイトはこれまで、従業員の感染防止に注力しながら感染者発生時の消毒作業を担ってきた。

「当社従業員の感染で

施設管理の人員が足りない事態にならないよう、真っ先に社内向けの感染防止に注力した。マスク

や消毒液を支給し、従業員を励ますために一時金の支給も行った。おかげ

で社内の感染者はだいぶ抑えられ、約九〇〇名の従業員に対し累計の感染者は一桁程度だ。

初期の対策は手探り状態で、エレベーターやド

(佐藤佑樹)

施設管理業における

コロナ禍の振り返りと今後の展望

三井物産
フォーサイト

山本社長インタビュー

コロナ対策でインフルエンザの流行が抑えられたこともあり、コロナ後には社会的に感染症対策の考え方が変わるだろう。

コロナ後に期待される
スポーツの盛り上がり

まだ油断はできないが
コロナ後は商業施設やス

た事業運営が不可欠だ。「例えばマツダスタジアムでは、看板広告のスポーツ探しかでなく、企業の冠試合における始球式支援やグラウンドでのイベント支援も行う。

他のチームでもノベルティの手配をしたりホームページを作ったりなど客

とはいえ、コロナ禍でのイベント開催という課題は継続している。スポーツチームはリーグの基準に従いコロナ対策を行っており、まずはそれをしっかりとサポートする。加えて、複数チームの支援で培った効果的な対策ノウハウを、リーグ・チームを超えて提案していきたい」。

施設管理から展開拡大
エネルギーとその先へ

三井物産フォーサイトの源流は三井物産と日本鋼管(JFE)それぞれ

の施設管理会社にあるため、エネルギー関連施設への知見も深い。現在、バ

イオマス発電や太陽光発電などの施設管理を手掛けているほか、今後は一

般施設を対象に、エネルギー供給側の管理ノウハウを踏まえた需用者側へ

のビジネス拡大を図る。「お台場などの東京臨

海部は電気・ガス・上下水・ゴミも地下トンネルを通過する。冷温水を使用し地域全体で熱を最適化する『地域熱供給』という仕組みもあり、当社は

その管理を担っている。最近では施設管理とエネルギーを結びつけた仕事も始めた。建物を建てる際に必要な受電・熱源

設備をオーナーに変わって当社が負担し、毎月の施設管理費用に設備費用

も上乗せして支払ってもらうというもので、お客様との信頼関係にもとづ

く長期的な取り組みが可能であり、従来のビジネスを掛け合わせて事業拡大につなげている。

コロナの消毒サービスも本業からの派生で、今

後も事業環境の変化にあわせてビジネス展開を図る。三井グループにおい

ても、力になれることがあればぜひお声がけいた



受けた日のうちに完了させる。最近ではテナントも対応に慣れてきたが、消毒のノウハウがなければ相談にお応えするし、空気清浄や抗ウイルスコーティングなど対策も増えている。消毒方法にコンプライアンスも含めた衛生講習など、安全安心を高める活動が続ける。

スポーツ観戦に人が戻る。三井物産フォーサイトはプロ野球の広島カープや中日ドラゴンズ、プロバスケのアルバルク東京や

練習、集客に努めて仕事の間口を広げている。スポーツ施設の管理からチーム経営のサポートに参画し、バスケでは新しくアリーナを造る話もあるなど、施設管理の仕事も拡大が期待される。コロナ禍でスポンサーの

辞退があるかと思っただが最小限に留まっている。